

563 中央大学水泳倶楽部

〔法学新報〕第29卷8(333)号 大正8年8月30日

○中央大学水泳倶楽部 中央大学学生中の有志諸氏は毎年夏期休暇を利用して一个月間海浜に於て部員一同共同生活を為し大に水泳の技を練り身体並に精神の健全を計り併せて学生間の親睦を尋めんことを期し中央大学水泳倶楽部を組織し去る七月中旬より八月中旬まで静岡県伊豆田方郡内浦村三津町に水泳場を設くることと為り中央大学運動部長太田資時氏は同倶楽部部长として大に尽力せられ又講師太田哲三氏は学生監督の任に当られ土岐二十八、笹本幸男、荒井貞藏、石川瀏、石津四郎、篠崎健三、古川運平、佐々木三郎、岩田由文、島田市藏、野中喬、三浦久晟の諸氏各々世話係、水上係、記録係、会計係、食事係、衛生係等に分れて努力し所謂共同生活の実を發揮し厳格なる水泳倶楽部規定に従ひつつ吾幾多の健児は身心の鍛練に余念なき有様なりし因に同倶楽部は大正九年度より中央大学水泳部と改称し組織を革めて其発展を図る筈なりと云ふ